

学生のために制作したギターは既にその子の手に渡っていたのですが、私のためにわざわざ借りてきてくださったっていました。それも含め、何本かのギターを触らせて頂きました。木本来の優しさ、温もりが感じられ、そして何よりも制作者・真田さんのハートが感じられるものばかりでありました。

廃材も大切に保管されています。圧倒的に使い捨ての多いこの時代において、物を大切にその精神が、出来上がったギターにも乗り移っているよ

うに感じた次第です。

仕上げにはワインを頂き、あつという間の3時間が過ぎました。

札幌の地においてこのような至福の時間を得るきっかけとなった『ライオン誌』に感謝しつつ、また遠く離れた地でも同じライオンとして、同じ精神で活動している喜びを感じつつ、更には、ライオンズを知らなければこの出会いもなかったのだと感慨も新たに、名残惜しくも、別れの時間となったのでした。

特別支援学校における ライオンズクエストの取り組み

天野 秀紀（福岡視聴覚特別支援学校）

福岡視聴覚特別支援学校中学部には、全学年で28人の生徒が在籍している。

委員会活動や総合的な学習の時間などは全学年で取り組み、生徒自身が学部に対する所属感や自己責任感を味わえるよう計画している。またコミュニケーション力を高めるためにも話し合い活動を積極的に取り入れ、生徒の「伝え合う力」を日々育てている。

4年目を迎えた、全学年でのライオ

ンズクエスト（LQ）への取り組みについてお話ししたい。

本校は、生徒数が少ないため3年間クラス替えがなく、ほぼ変更されない。小学部から変わらない場合もあり、かつては学級内での役割がマンネリ化し、リーダー的存在の生徒の意見に依存する形で話し合いが進むことが多かった。また生徒の「自信のなさ」も挙げられていた。さまざまな活動の場で自己選

択をし、自己改善することが無かったのか、「先生にさせられているイメージ」が強かったようだ。これではいけないと中学部全体で改善策を模索する中で、4年前、LQとの出会いがあった。

初めから素直にLQを受け入れられた訳ではなかった。2011年、福岡ふようライオンズクラブの支援で教員の一人が東京でワークショップ（WS）を受講した。が、彼の報告に他の教員は半信半疑だった。聞いたこともないプログラムだったし、これまでの授業の進め方とあまりに異なり、指導方法も生徒の反応も想像出来なかったのだ。

しかし実際に授業を行ってみると、生徒から「こういう風に考えればいいのか」「他のグループの意見が面白かった」など、これまでとは違った反応が返ってきた。ちょうど次年度の学部研修内容を検討する時期だったので、中学部全体でLQを基にした道徳指導を実施することにした。

11年に福岡鶴城ライオンズクラブが福岡で主催したWSには、教員の半数が休日2日間の研修に足を運んだ。一つひとつが新しく、生徒の視点や思考に合わせたプログラムだった。グループに分かれて授業案を作成し模擬授業を行った。活動中は皆生徒そのものだった。役割を決め、協力し合って解決する。これが自然な流れで進んでいく。気付



けば誰もが積極的に動き出している。WS終了後、私たちは「これで学級経営に見通しが立った」と確信した。

それからはLQを体験した教員たちが、本校生徒に合わせた指導内容を考え進めていった。LQの授業では必ず話し合いを取り入れた。1〜3年の縦割りグループで組、生徒同士、先輩・後輩としての意識が高まり、グループ内での自分の役割を見つけようと司会や書記に積極的に挑戦し、発表する姿が回を追うごとに多く見られるようになった。学年や学級の枠を超えてさまざまな意見を共有する場合は、生徒たちにとつて新鮮であった。「先輩の意見になるほど、そういう考え方もあるのかと思った」という生徒の感想から分かるように、生徒自身の固定観念を取り

払い、さまざまな視点をもつて考えようとする力、多様な価値観を身に付けることにながったのである。

「自分の意見が認められてうれしかった」という感想が増え、生徒たちは自信を持ち始めた。「伝え合う力」の面でも成果があった。教員が指導の流れをロールプレイを用いて説明するのを見て、その良さを感じ取った生徒たちは、集会での委員会報告場面で寸劇

を取り入れ、解決方法を考えさせた。

話し合いの場面でも、友人同士の話を懸命に聞く姿が見られるようになった。どんな意見を出しても笑われたり批判されたりすることはないので、みんなの前で安心して発表し、意見を言うことが出来る。簡単に早く話し合いを終わらせたり、誰かの意見を無視したりすることが無くなり、生徒間の信頼関係が築かれていくことがうかがえる。

カリキュラムは3年間変更せず行った。3年生は3回同じ内容を受けたことになる。それゆえ経験者は授業の見直しを持って役割を自覚し実行している。上級生がまとめ役として司会や書記をしたり、分かっている仲間に詳しく説明したりする姿から、「自分が先輩に続いてこの役割を」と自然と引き継がれているのである。LQ以外の学校生活においても同様の姿が見られている。

このすばらしい取り組みを自分たちだけのものにするのはもったいない。本校職員が他校の研修に行き、LQによる生徒の成長について話をするようになった。

LQ導入から1年目の秋、九州地区の聴覚特別支援学校の研修が福岡県で行われ、本校中学部がLQの公開授業を行った。生徒の生き生きと話し合う

姿を多くの参加者に見て頂いた。その後も当校での公開授業とLQフォローアップ研修が複数回開かれた。

先日、3年前に公開授業を参観されたという他県の先生と話す機会があった。生徒の動きや表情を見て「圧巻だった」と。「全職員と全生徒で取り組めるからこそすばらしいですよ」と私には即答した。そしてLQとの出会いからこれまでの取り組みを熱く語り、今後情報交換をする約束を交わした。

LQはすばらしい。それはやってみたいと分らない。本校の実践から九州の聴覚特別支援学校に広がっていくことを確信している。(中学部教諭)

お仏壇・仏具はやっぱり京都



(株) **若林**

伝統工芸 京仏壇・京仏具

京都本社 〒600-8218京都市下京区七条通新町東入 ☎075-371-3131(代)
 東京店 〒146-0081東京都大田区仲池上2-8-13 ☎03-3755-8488(代)
 築地店 ☎03-3546-8228(代)
 札幌店 ☎011-512-3455(代)
 仙台店 ☎022-213-0666(代)
 近江草津店 ☎077-564-1011(代)
 福岡営業所 ☎092-761-3737(代)
 新潟営業所 ☎025-255-0868(代)

◎お仏壇のカタログ
差し上げます。
◎お近くの若林各店
までお気軽に。

京都ライオンズクラブ会員 若林正博